

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点(令和5年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和2年4月以降、認定基本計画に基づき、「長崎のエンジンである中心市街地を起点とした、人に選ばれるまちづくり」の方針のもとに全80の事業を実施しており、長崎市の総人口が減少し続けている中、中心市街地の人口はほぼ横ばいの状況となっている。

さらに、中心市街地内の標準地の地価についても、概ね増加しているなど、長崎市の中心部としての魅力は一定維持されているものと考えられる。

また、令和4年9月に西九州新幹線が開業し、11月には新大工町地区市街地再開発事業、今年3月には新市庁舎建設事業が完成するなど、各事業においては、概ね順調に進捗しており、今後更なる集客・回遊の拠点機能が強化されることから、賑わい創出が期待されている。

これまで、新型コロナウイルス感染症の影響で、長期間にわたり市民や観光客の行動に制限がかかっていたことや、例年賑わいをみせる長崎帆船まつりや長崎くんち等のイベントが令和4年度も中止となったことなどから、市民の活動や観光客の減少により、歩行者通行量や宿泊客数が伸び悩むなど、中心市街地のみならず、長崎市全体において賑わいの創出が非常に困難な状況となっていた。

そのような中、西九州新幹線の開業イベントや、今年1月には、3年ぶりに長崎ランタンフェスティバルが開催され、3月には受入れが途絶えていた国際クルーズ客船の寄港も再開するなど、観光業に復調の兆しが見える。

また、主要事業も概ね順調に進捗していることから、ウィズコロナを見据えて官民が一体となり、現在行っている各事業を着実に進捗させることで、中心市街地の活性化を図っていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口（住民基本台帳に基づく人口）（基準日：毎年度12月31日 単位：人）

（中心市街地 区域）	令和元年度 （計画前年度）	令和2年度 （1年目）	令和3年度 （2年目）	令和4年度 （3年目）	令和5年度 （4年目）	令和6年度 （5年目）
人口	30,766	30,698	30,547	30,748		
人口増減数	△77	△68	△151	201		
自然増減数						
社会増減数						
転入者数						

※システムの都合上、町ごとに「自然増減数」、「社会増減数」、「転入者数」を推計することが困難

## (2) 地価 (地価公示 国土交通省)

(基準日：毎年度1月1日 単位：円/m<sup>2</sup>)

(中心市街地区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
中心市街地内 標準地平均	456,444	458,444	471,000	485,778		
油屋町 55-1	418,000	411,000	409,000	422,000		
五島町 1-16	665,000	685,000	746,000	786,000		
浜町 3-32	944,000	944,000	944,000	963,000		
大浦町 14-5	222,000	220,000	219,000	221,000		
新大工町 179	317,000	321,000	334,000	348,000		
船大工町 76	226,000	218,000	212,000	210,000		
宝町 79	373,000	380,000	401,000	423,000		
万屋町 77	485,000	486,000	494,000	504,000		
五島町 6-15	458,000	461,000	480,000	495,000		

※長崎県内の標準地のうちR 2. 1. 1時点で中心市街地内にあるものを抜粋

## 2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和4年度は第2期基本計画の3年度目にあたり、全80事業が実施された。

令和4年9月に西九州新幹線が開業し、主要事業においては、新大工町地区市街地再開発事業(令和4年11月)や新市庁舎(令和5年1月開庁)が完成する等、各事業は概ね順調に進捗したと思われる。

目標指標の一つである「中心市街地の新規雇用者数」については、企業立地や新大工町市街地再開発事業により完成した施設、交流拠点施設による雇用の効果により、目標値を上回るペースで増加傾向にある。ただし、新規雇用については、同域内の既存企業からの人材の移動も考えられることから、今後の推移は全体を俯瞰した適切な雇用対策が講じられるよう一層の配慮をいただきたい。

「中心市街地の年間延べ宿泊客数」については、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限やイベント等の自粛により基準値を下回っているが増加傾向にあり、現在進められている主要事業の完成による効果や、長崎ランタンフェスティバルなどの大型イベントが再開され、観光業に復調の兆しが見られることから、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いた後は目標達成が期待される。

「1日あたりの歩行者通行量」についても、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により基準値を下回っている。

今後は、各主要事業の完成による波及効果や観光業の復調により「中心市街地の年間延べ宿泊客数」や「1日あたりの歩行者通行量」の増加が期待できるが、受け皿となる宿泊業においては、現在、人手不足の影響から十分に受入れが出来ていない状況もあり、機会を逃すことがないよう関連事業者の人手不足の課題にも並行して取り組み、効果を最大化するよう格別の配慮をお願いしたい。

また、今後のデータの示し方として、主要事業による施設が完成する中で、定点観測だけではなく各施設からの人流を把握する動態調査やまちなかの人口密度の変遷等のデータも注視しながら、進捗管理を行ない、引き続き、中心部商店街や既存の商業者と大型施設が共生し、中心市街地の一体的な活性化が図られるよう事業を進めていただきたい。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
雇用の場の創出	中心市街地の新規雇用者数	893人 (H26～30年度)	1,300人 (R2～6年度)	963人 (R2～4年度)	B ※	①	①
交流の産業化による消費の拡大	中心市街地の年間延べ宿泊客数	1,699,434人 (H30年)	1,997,000人 (R6年)	1,460,103人 (R4年)	C	①	①
市民生活の利便性向上	1日当たりの歩行者通行量 (9地点の合計)	平日 61,997人 休日 60,896人 (R元年度)	平日 65,300人 休日 64,000人 (R6年度)	平日 46,490人 休日 49,412人 (R4年度)	C	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①：目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調）

②：目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調）

なお、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

※R2～6年度の累計を目標値と設定しているため

（表中の基準値「893人」はH26～30年度の累計値）

### 2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地の新規雇用者数」については、企業立地推進事業の進捗や交流拠点施設整備事業及び新大工町市街地再開発事業の完成に伴い、新規雇用者数が順調に増加している。今後も、主要事業のみならず、若年者雇用促進事業などその他の各事業の進捗を図ることで、新たな雇用が創出されることから、目標達成が見込まれる。

「中心市街地の年間延べ宿泊客数」については、主要事業の交流拠点施設整備事業が完了し、文化財保存整備事業についても、完成に向けて順調に進捗しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、基準値の約85%にとどまっている。

このような中、昨年9月に西九州新幹線が開業し、今年1月には3年ぶりに長崎ランタンフェスティバルが開催され、3月には受入れが途絶えていた国際クルーズ客船の寄港も再開するなど、観光業に復調の兆しが見られ、宿泊客数も増加傾向にあることから、新型コロナウイルス感染症の影響が一定落ち着いた後は、宿泊客数が増加することが想定されるため、目標達成は可能と見込まれる。

「1日当たりの歩行者通行量（9地点の合計）」については、主要事業の交流拠点施設整備事業や新大工町地区市街地再開発事業、新市庁舎建設事業が完成し、順調に進捗していることから、増加するものと見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、平日・休日ともに全地点で最新値が基準年度の値を下回っており、特に平日においては基準値より約25%も減少する結果となっている。

このような中、観光業に復調の兆しが見られ、宿泊客数が増加傾向にあり、次年度以降も各事業を着実に進捗させることで都市の魅力が着実に強化されていくことや、今後、事業完成による波及効果もますます期待されることから、新型コロナウイルス感染症の影響が一定落ち着いた後には、目標達成は可能と見込まれる。

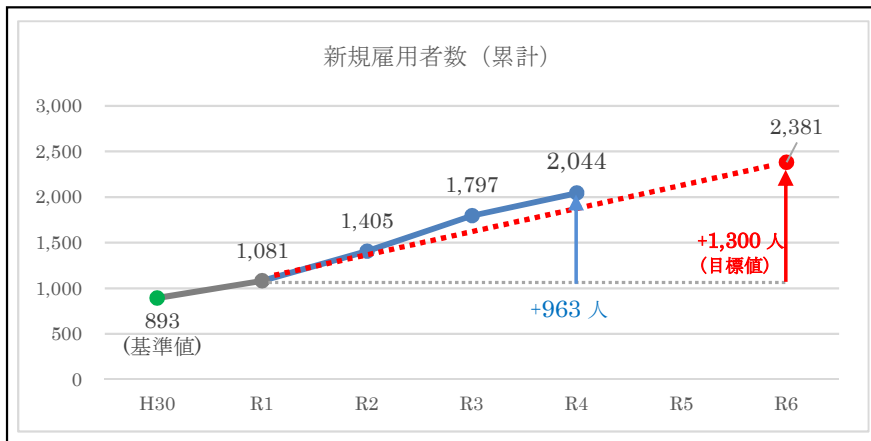
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「中心市街地の新規雇用者数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 53～54 参照

#### ●調査結果と分析



年度	(単位：人)
H26~30	893 (基準年値)
R 1	1,081
R 2	1,405
R 3	1,797
R 4	2,044
R 5	-
R 6	2,381 (R 2-6 累計 1,300) (目標値)

※調査方法：ヒアリング調査

※調査月：毎年4月

※調査主体：長崎市

※調査対象：平成26年以降に中心市街地で操業開始した企業

#### 〈分析内容〉

新規雇用者数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。

主要事業において、企業立地推進事業による中心市街地への新規の企業誘致が着実に進んでおり、新大工町市街地再開発事業により令和2年度に完成した業務施設への企業誘致による雇用者数の増加や、令和3年度に完了した交流拠点施設整備事業による雇用者数が目標値を上回っているなど、新規雇用者は、令和4年度で247人増え、最新値で累計963人となっており、期待された効果が発現している。

#### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

##### ①. 企業立地推進事業（長崎市）

事業実施期間	昭和58年度～【実施中】
事業概要	企業立地奨励制度に基づき、事業所の設置・賃借（施設等整備奨励金・建物等賃借奨励金）や新規雇用（雇用奨励金）に係る必要な奨励措置を講ずることにより、産業の振興及び雇用機会の拡大を図り、もって本市経済の発展及び市民生活の向上に資する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】900人（5カ年累計） 【最新値】745人*（3カ年累計） 当該事業による新規企業の誘致実績として、令和4年度に

	<p>おいては、長崎市内に新たに5つの企業を誘致し、そのうち4つは中心市街地区域内に立地した。</p> <p>なお、年度内の新規雇用者数は226人となっている。</p> <p>(公財)長崎県産業振興財団及び県と連携し、地震が少なく人材が確保しやすいという利点や企業立地奨励制度を積極的に生かした企業誘致活動を行ったことが要因であると考えられる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※②新大工町市街地再開発事業の区域内に企業立地奨励制度を活用して立地した企業の雇用者数は①に含めず②に含める。</p> </div>
事業の今後について	<p>企業誘致については概ね順調に進捗しており、引き続き、(公財)長崎県産業振興財団及び県と連携し、地震が少なく人材が確保しやすいという利点を生かした誘致活動を展開しつつ、企業立地奨励制度に基づく支援を行うとともに、採用支援など企業立地後のアフターフォローを充実させるなどの取組みを進める。</p>

②. 新大工町市街地再開発事業（新大工町地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成25年度～令和5年度【実施中】 [認定基本計画：平成25年度～令和4年度]
事業概要	中心市街地の商業地である新大工町地区において商業施設の再整備と併せて、住宅、業務施設、駐車場施設等を一体的に整備することにより、地域活力の維持向上と賑わい再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） （令和2～4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】300人（5カ年累計）</p> <p>【最新値】45人（3カ年累計）</p> <p>当該事業は、南北の街区に分けて実施され、概ね当初の計画どおりに進捗し、令和2年12月に南街区の業務施設を含むJプロ新大工ビルが開業し、令和4年11月には北街区の商業施設を含む新大工町ファンスクエアが開業した。</p> <p>当該事業による新規雇用者数は、最新値で45人となっており、目標値に届いていない。</p> <p>これは、新型コロナウイルス感染症の影響で南街区の業務施設への企業誘致が進まなかったことが、要因と考えられる。</p>
事業の今後について	<p>令和5年度は、組合の解散・清算業務を実施する。</p> <p>今後、北街区のマンションへの入居が進み、定住人口が増加することで、地域の活性化が期待されるとともに、引き続き南街区の業務施設への新規企業の誘致や雇用者の増加につながる支援を行っていく。</p>

### ③. 交流拠点施設整備事業（長崎市）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 3 年度【済】
事業概要	新長崎駅西側の隣接地において、会議や地域住民が交流できるイベントなどを開催できる交流拠点施設を建設し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（長崎駅周辺地区））（国土交通省）（令和 2～3 年度） ②中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和 2～3 年度） ③都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和 2～3 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】100 人（5 カ年累計） 【最新値】173 人（3 カ年累計） 当該事業は当初計画どおりに進捗し、令和 3 年 8 月に MICE 施設が完成し、同 11 月から併設するホテルと共に開業した。 当該事業による新規雇用者数は、最新値で 173 人となっており、目標値を上回っている。
事業の今後について	今後も、MICE 施設の年間目標値（催事開催件数 775 件、利用者数 61 万人）を達成していくとともに、会議やイベントなどの更なる誘致・受入を進め、新規雇用の拡大につなげていく

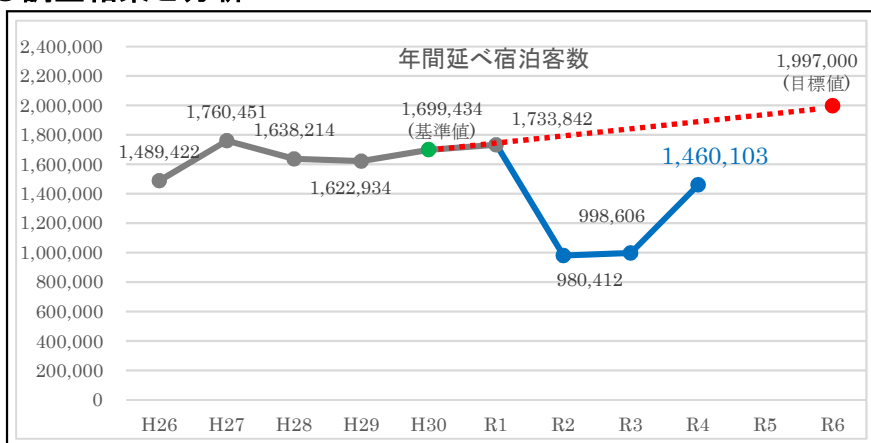
#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、例年多くの企業からの問い合わせを受け、すでに令和 5 年度以降の立地申込書の提出を受けていることから、目標達成は可能と見込まれる。

今後も主要事業のみならず、若年者雇用促進事業などその他の各事業の進捗も図り、目標達成に向けた取組を継続する。

(2)「中心市街地の年間延べ宿泊客数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 55～56 参照

●調査結果と分析



年度	(単位：人)
H30	1,699,434 (基準値)
R1	1,733,842
R2	980,412
R3	998,606
R4	1,460,103
R5	
R6	1,997,000 (目標値)

※調査方法：ヒアリング調査

※調査月：毎年1月～

※調査主体：長崎県・長崎市

※調査対象：中心市街地内の全宿泊施設

〈分析内容〉

宿泊客数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。

新型コロナウイルス感染症の影響により市民や観光客の行動に制限がかかり、市のイベントなども軒並み中止となっていたことが宿泊客数の大幅な減少にも影響していた。

しかしながら、交流拠点施設整備事業が完了し、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きつつあることから、宿泊客数は増加傾向にある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 交流拠点施設整備事業（長崎市）

事業実施期間	平成27年度～令和3年度【済】
事業概要	新長崎駅西側の隣接地において、会議や地域住民が交流できるイベントなどを開催できる交流拠点施設を建設し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（長崎駅周辺地区））（国土交通省）（令和2～3年度） ②中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和2～3年度） ③都市構造再編集集中支援事業（国土交通省）（令和2～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】99,000人／年 【最新値】61,000人／年 当該事業は当初計画どおりに進捗し、令和3年8月にMICE施設が完成し、同11月から併設するホテルと共に開業した。 当該事業による、令和4年の宿泊客数（推計）は、最新値で61,000人／年となっており、MICE施設の年間目標（催事開催件数775件、利用者数61万人）は達成したものの、宿泊客数



	<p>は目標値に届かなかった。</p> <p>これは、新型コロナウイルス感染症の影響で、県外からの参加者が多く宿泊率が高い、学会・大会等の開催が少なかったことが要因と考えられる。</p>
事業の今後について	<p>今後も、MICE 施設の年間目標値（催事開催件数 775 件、利用者数 61 万人）を達成していくとともに、宿泊客数の増加につながる学会・大会等の更なる誘致・受入を進めていく。</p>

## ②. 文化財保存整備事業（長崎市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	<p>国、長崎県及び長崎市の指定文化財などの所有者が実施する保存整備事業に対し、事業費の一部を補助することで、文化財を良好な状態で後世に継承しながら中心市街地の魅力向上に寄与する。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（文部科学省） （令和 3～6 年度）</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】 30,000 人／年</p> <p>南山手地区伝統的建造物である明治期の洋館「マリア園」を保存修理し、レトロな外観を保ったホテルとしての利活用を図る事業などが計画されており、令和 5 年の完成を目指し、建築工事を進めている。</p>
事業の今後について	<p>令和 3 年度より工事に着手しており、完成に向け着実に進めていく。</p>

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

宿泊客数の増加に寄与する主要事業については、交流拠点施設整備事業が令和 3 年度に完了し、文化財保存整備事業についても、令和 3 年度から工事に着手しており、完成に向けて順調に進捗しているが、年間延べ宿泊客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、基準値の約 85%にとどまっている。

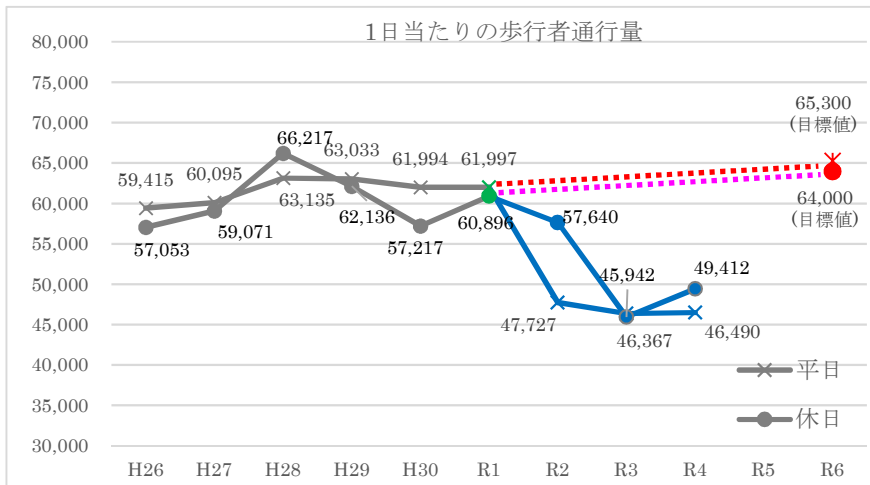
このような中、昨年 9 月に西九州新幹線が開業し、今年 1 月には 3 年ぶりに長崎ランタンフェスティバルが開催され、3 月には受入れが途絶えていた国際クルーズ客船の寄港も再開するなど、観光業に復調の兆しが見られ、宿泊客数も増加傾向にある。

このことから、現在行っている各事業を着実に進捗させ都市の魅力をさらに強化するとともに、主要事業の完成による効果が期待できることから、新型コロナウイルス感染症の影響が一定落ち着いた後は、宿泊客数が増加することが想定されるため、目標達成は可能と見込まれる。

### (3) 「1日当たりの歩行者通行量(9地点の合計)」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 56～59 参照

#### ●調査結果と分析



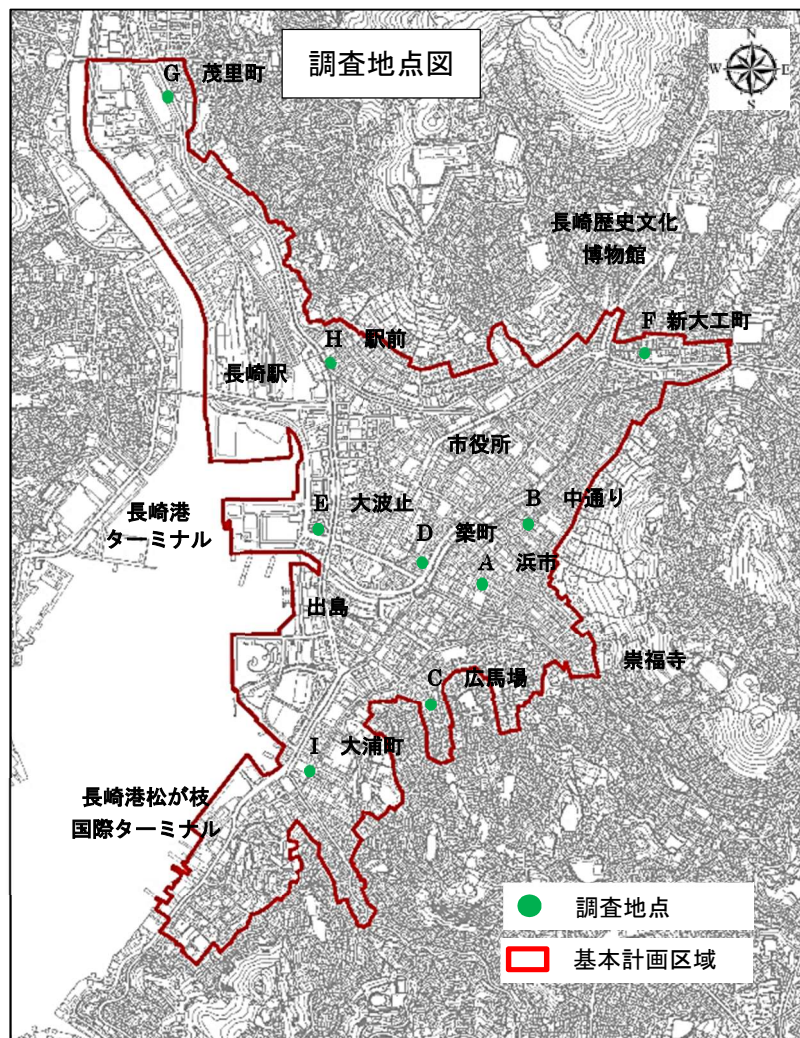
年度	(単位：人)
R 1	平日：61,997 休日：60,896 (基準値)
R 2	平日：47,727 休日：57,640
R 3	平日：46,367 休日：45,942
R 4	平日：46,490 休日：49,412
R 5	平日： 休日：
R 6	平日：65,300 休日：64,000 (目標値)

※調査方法：平日と休日の2日間、10時～18時に計測

※調査月：毎年9月（令和3年度は10月に実施）

※調査主体：長崎商工会議所

※調査対象：中心市街地9地点（浜町商店街、中通り商店街ほか）



(上段：平日、下段：休日) (単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
地点A (浜市商店街)	19,916 21,321	13,817 20,005	12,976 15,741	13,507 17,308		
地点B (中通り商店街)	5,033 4,432	4,363 4,848	4,440 4,122	<b>3,854</b> <b>3,543</b>		
地点C (広馬場商店街)	1,255 1,043	855 1,157	937 683	1,003 848		
地点D (築町商店街)	10,189 7,915	8,204 7,743	8,249 6,049	8,472 6,564		
地点E (大波止)	6,269 8,557	4,389 7,920	4,651 6,091	4,506 6,480		
地点F (新大工町商店街)	7,326 3,146	7,341 3,564	6,233 3,079	<b>5,846</b> <b>2,861</b>		
地点G (茂里町)	8,029 11,046	6,432 8,985	6,138 7,708	6,125 8,994		
地点H (長崎駅前商店街)	2,244 1,928	1,399 1,646	1,768 1,333	<b>1,942</b> <b>1,537</b>		
地点I (大浦町)	1,736 1,517	927 1,772	975 1,136	1,235 1,277		

### 〈分析内容〉

歩行者通行量の増加に向けた各事業については、新大工町地区市街地再開発事業や新市庁舎建設事業が完成するなど、概ね予定どおり進捗した。

しかし、歩行者交通量は、全地点で最新値が基準年度の値を下回っており、平日では地点A、E、Iの歩行者数が基準年度の値と比較して3割程度減少し、休日では地点B、E、Hで歩行者数が基準年度の値と比較して2割以上減少している。

これは、新型コロナウイルス感染症の影響が主な要因と考えられ、完成した事業による波及効果が十分に表れていないことから、期待された効果は発現していない。

一方で、昨年9月に西九州新幹線が開業し、今年1月に、3年ぶりに長崎ランタンフェスティバルが開催され、3月には受入れが途絶えていた国際クルーズ客船の寄港も再開するなど、観光業に復調の兆しが見られることから、現在行っている各事業を着実に進捗させることで、新型コロナウイルス感染症の影響が一定落ち着いた後には、歩行者通行量の増加が期待できる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新大工町地区市街地再開発事業（新大工町地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 25 年度～令和 5 年度【実施中】 [認定基本計画：平成 25 年度～令和 4 年度]
事業概要	中心市街地の商業地である新大工町地区において商業施設の再整備と併せて、住宅、業務施設、駐車場施設等を一体的に整備することにより、地域活力の維持向上と賑わい再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和 2～4 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】平日 7,839 人／日、休日 3,398 人／日 【最新値】平日 5,846 人／日、休日 2,861 人／日（地点 F） 当該事業は、南北の街区に分けて実施され、概ね当初の計画どおりに進捗し、令和 2 年 12 月に南街区の業務施設を含む J プロ新大工ビルが開業し、令和 4 年 11 月には北街区の商業施設を含む新大工町ファンスクエアが開業した。 当該事業による影響が波及すると想定される調査地点 F（新大工町商店街）の歩行者通行量は、最新値で平日 5,846 人／日、休日 2,861 人／日となっており、目標値を下回っている。 これは、新型コロナウイルス感染症の影響や、当該調査が、北街区の商業施設開業前の令和 4 年 9 月に実施されたもので、当該事業の効果が反映されなかったことが、目標値を下回った要因であると考えられる。
事業の今後について	令和 5 年度は、組合の解散・清算業務を実施する。 今後、北街区のマンションへの入居が進み、定住人口が増加することで地域が活性化し、歩行者通行量の増加が期待される。

②. 新市庁舎建設事業（長崎市）

事業実施期間	平成 28 年度～令和 4 年度【済】
事業概要	防災・災害復興拠点機能や多目的利用が可能な空間を有する新市庁舎を中心市街地に建設し、市民によるイベント・展示やエントランスホール、広場などを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和 2～4 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】平日 5,233 人／日、休日 4,532 人／日 【最新値】平日 3,854 人／日、休日 3,543 人／日（地点 B） 当該事業は、当初の計画どおりに進捗し、令和 5 年 1 月に新市庁舎が開庁し、庁舎前広場など建物周辺の外構工事が 3 月に完了した。

	<p>新市庁舎の立地による影響が波及すると想定される調査地点B（中通り商店街）の歩行者通行量は、最新値で平日 3,854 人／日、休日 3,543 人／日となっており、目標値を下回っている。</p> <p>これは、新型コロナウイルス感染症の影響や、当該調査が、新市庁舎開庁前の令和4年9月に実施されたもので、当該事業の効果が反映されなかったことが、目標値を下回った要因であると考えられる。</p>
事業の今後について	<p>庁舎前広場の活用や、隣接する魚の町公園との連携により、団体等がイベントを開催しやすいような環境を整え、多くの市民や観光客が訪れるような取り組みを進める。</p>

### ③. 長崎駅周辺土地区画整理事業（長崎市）

事業実施期間	平成 21 年度～令和 10 年度【実施中】
事業概要	<p>国際観光都市長崎の玄関口にふさわしい都市拠点を形成し、快適な回遊拠点、交通環境の改善などを目的として、新幹線などの鉄道施設の受け皿及び道路や広場などの都市基盤施設の整備を行う。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（道路事業（区画））（国土交通省）（令和 2 年度）</p> <p>社会資本整備総合交付金（道路事業）（国土交通省）（令和 3～7 年度）</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値※】 平日 2,805 人／日、休日 3,008 人／日</p> <p>【最新値※】 平日 1,942 人／日、休日 1,537 人／日（地点 H）</p> <p>当該事業は、平成 23 年度に策定した「長崎駅周辺まちづくり基本計画」に基づき事業を進めており、令和 3 年 4 月に在来線駅舎のある西口駅前広場が供用開始し、令和 4 年 9 月 23 日の西九州新幹線の開業に合わせて東口交通広場を暫定的に供用するなど、着実に進捗している。</p> <p>当該事業による影響が波及すると想定される調査地点 H（長崎駅前商店街）の歩行者通行量は、最新値で平日 1,942 人／日、休日 1,537 人／日となっており、目標値を下回っている。</p> <p>これは、交流拠点施設整備事業が完了し、昨年 9 月に西九州新幹線が開業したものの、新型コロナウイルス感染症の影響や、当該事業が完了していないことが、目標値を下回った要因であると考えられる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※長崎駅周辺土地区画整理事業と交流拠点施設整備事業による歩行者通行量の増加を合算した数値</p> </div>
事業の今後について	<p>令和 7 年度の長崎駅周辺の都市基盤施設の完成に向け整備を継続していく。</p>

#### ④. 交流拠点施設整備事業（長崎市）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 3 年度【済】
事業概要	新長崎駅西側の隣接地において、会議や地域住民が交流できるイベントなどを開催できる交流拠点施設を建設し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（長崎駅周辺地区））（国土交通省）（令和 2～3 年度） ②中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和 2～3 年度） ③都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和 2～3 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値※】 平日 2,805 人／日、休日 3,008 人／日 【最新値※】 平日 1,942 人／日、休日 1,537 人／日（地点 H） 当該事業は当初計画どおりに進捗し、令和 3 年 8 月に MICE 施設が完成し、同 11 月から併設するホテルと共に開業した。 当該施設の立地による影響が波及すると想定される調査地点 H（長崎駅前商店街）の歩行者通行量は、最新値で平日 1,942 人／日、休日 1,537 人／日となっており、目標値を下回っている。 これは、当該事業が完了し、昨年 9 月に西九州新幹線が開業したものの、新型コロナウイルス感染症の影響や、長崎駅周辺土地区画整理事業が完了していないことが、目標値を下回った要因であると考えられる。 ※長崎駅周辺土地区画整理事業と交流拠点施設整備事業による歩行者通行量の増加を合算した数値
事業の今後について	今後も、MICE 施設の年間目標値（催事開催件数 775 件、利用者数 61 万人）を達成していくとともに、歩行者通行量の増加につながる学会・大会等の更なる誘致・受入を進めていく。

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者通行量の増加に寄与する主要事業については、新大工町地区市街地再開発事業による施設の開業や新市庁舎建設事業が完成するなど、順調に進捗している。

しかし、歩行者通行量は、新型コロナウイルス感染症の影響により、特に平日においては想定よりも大幅に目標値を下回り、基準値よりも約 25%減少している状況にある。

このような中、昨年 9 月に西九州新幹線が開業し、今年 1 月には 3 年ぶりに長崎ランタンフェスティバルが開催され、3 月には受入れが途絶えていた国際クルーズ客船の寄港も再開するなど、観光業に復調の兆しが見られる。

このことから、現在行っている各事業を着実に進捗させ都市の魅力をさらに強化するとともに、主要事業の完成による波及効果が期待できることから、新型コロナウイルス感染症の影響が一定落ち着いた後は、歩行者通行量が増加することが想定されるため、目標達成は可能と見込まれる。